

加齢黄斑変性

診断と最新の治療について

孔という疾患も加齢黄斑変性と似た症状を起し、これも硝子体手術で治療します。

ます。予防には禁煙のほか、アンチエイジング効果のある亜鉛などの抗酸化ミネラルやビタミンC、E、Aなどの抗酸化ビタミンの摂取、黄斑に多く含まれるβカロテン、ルテインなどを含んだ野菜、青魚などを食事とすることがお勧めです。

加齢黄斑変性の治療で最も多いのは、抗VEGF薬の硝子体注射です。VEGFというのはもともと体内で分泌される、血管を作らせようとする

加齢黄斑変性は、以前は不治の病気でしたが、今では視力を維持できる可能性があります。大切なのは、早期発見です。自分でチェックする方法にアムスラーチャートがあります。線が細かい碁盤の目のように引かれたもので、30センチ目ざつ中心点を見てください。ゆがんだり中心部が見えなかったりしたら、眼科を受診しましょう。

人間の目をカメラに例えれば、フィルムにあたるのが網膜で、プラネタリウムのスクリーンのように、眼球の内側に広がっています。その中心にあるのが黄斑で、細かいものや色を見分けるのに重要な部分です。

加齢黄斑変性は、欧米では成人失明原因の第1位。日本でも高齢化や食生活の欧米化などで急増し、4位になっています。

網膜は、10層のうち最下層が網膜色素上皮で、その下に脈絡膜があります。加齢黄斑変性では脈絡膜に新しい血管ができ、増殖して網膜に侵入

行岡病院副院長

二宮欣彦さん

予防策は禁煙と食事の配慮

していきます。この血管はもろく、血液の成分が漏れて網膜が水ぶくれのようになったり、血管が破れ出血したりします。このため、視力低下に加

え、視野の中心が見えなくなったりゆがんで見えたりします。色覚異常が現れることもあります。ただ、これらの自覚症状があっても加齢黄斑変

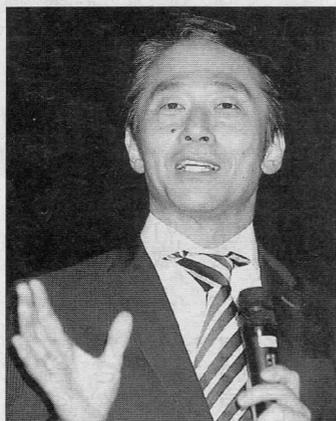
性は黄斑に及んでも同様の症状が出ます。これは、硝子体手術といわれる手術で治療します。目の中にガスを入れ、はがれた網膜を外側の網膜色素上

皮に押しつけ、網膜の穴の開いた部分をレーザーでくっつけます。黄斑円

信号で、これを無力化することで新生血管の成長を止めるのです。また、加齢黄斑変性に伴う血腫を黄斑から移動させる手術もあります。

一番の危険因子は喫煙です。喫煙者のリスクは非喫煙者の3倍と言われ

このみや・よしひこ 東京大工学部(医用精密講座)卒、大阪大医学部卒。多根記念眼科病院、米ニュージャージー医科大学大フェローなどを経て2002年行岡病院眼科部長、07年から現職。専門は白内障手術、網膜硝子体手術、眼光学。



医学
彰彦会長

も生まれてきました。それだけに、情報が氾濫しており、正しい知識を得ることが大事です。今日の講演を参考に、明日からは目の健康について、より関心を持ってください。